

平成25年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大阪市立木津中学校

生徒数

43人

平均値

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅跳び | ボール投げ | 体力合計点 |
|-----|-------|-------|-------|-------|--------|-----------|------|--------|-------|-------|
| 男子 | 31.65 | 31.76 | 36.12 | 50.12 | | 86.47 | 7.89 | 205.47 | 23.06 | 43.24 |
| 大阪市 | 29.52 | 27.12 | 40.76 | 49.98 | 410.24 | 83.27 | 8.13 | 189.16 | 20.66 | 40.28 |
| 全国 | 29.21 | 27.58 | 43.11 | 51.08 | 393.90 | 84.98 | 8.04 | 193.68 | 21.01 | 41.78 |
| 女子 | 23.80 | 22.48 | 39.40 | 41.04 | | 52.04 | 8.90 | 164.80 | 13.00 | 45.83 |
| 大阪市 | 24.16 | 22.45 | 43.56 | 44.40 | 292.71 | 55.54 | 9.05 | 163.23 | 13.07 | 47.03 |
| 全国 | 23.76 | 23.03 | 45.12 | 45.27 | 307.17 | 57.20 | 8.88 | 166.18 | 12.97 | 48.42 |

結果の概要

- ・男子は、体力合計点で全国平均を上回っており、種目別に見ても、長座体前屈と反復横とびで、全国を下回っている。
- ・女子は、ほとんどの種目において、全国平均を下回っており、長座体前屈と反復横とびで大きく下回っている。
- ・男女とも総合評価において、A、Bの割合は全国よりも低くなっているが、A～Cまでの割合で見ると全国を上回っており、DとEの割合が低くなっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- ・体育の授業において準備運動に柔軟性や筋力を高めるための補強運動を取り入れている。そのことが、男子の結果に現れていると思われる。今後も引き続き、取組みを継続していく。冬季にはインターバルトレーニングを取り入れており、今後、持久力についても一定の成果が望まれる。
- ・総合評価のDとEの割合が低いことから、体育の授業を中心として全体の体力の底上げが図れていると思われる。また、運動する楽しさを体感させることを意識して取組んでいることで運動への意識にも高まりが見られる。今後とも授業方法の改善に努めていく。
- ・男女とも長座体前屈と反復横とびに課題が見られるので、引き続き、柔軟性や敏捷性を高める運動を取り入れていくようとする。

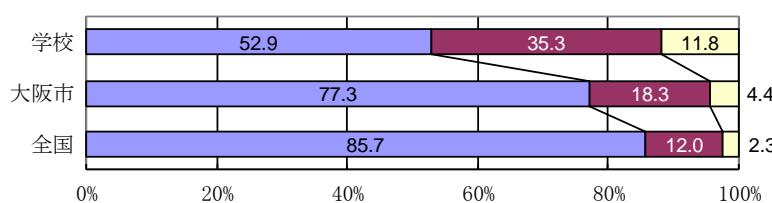
中学校男子 基本的生活習慣・運動のきっかけ

結果の概要

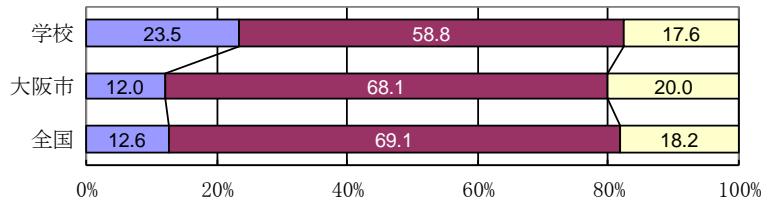
- 運動部に所属している割合が高く、土曜日や日曜日の運動実施率も高くなっている。また、屋休みの運動実施率も高い。
- 基本的生活習慣には課題がある。朝食の喫食率や1日の睡眠時間、TVの視聴時間にも課題が見られる。
- 運動のきっかけについては、「好きな種目があれば」「自由に使える場所や時間があれば」という回答の割合が高くなっている。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

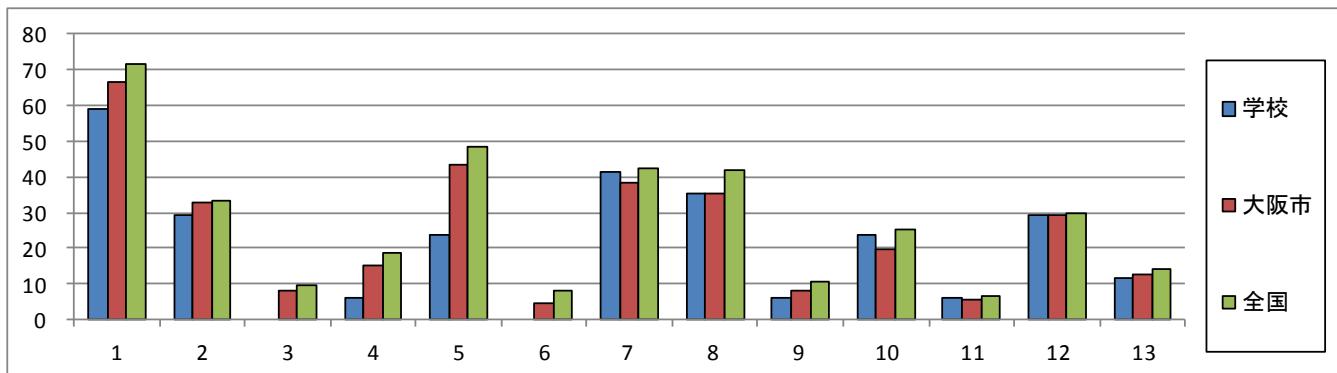
| 9 |
|----------|
| 朝食は食べますか |



| 10 |
|---------|
| 1日の睡眠時間 |



| 12 |
|--|
| 今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。 |



- 自分が好きな種目、できそうな種目があったら
- 上手にできなくても自分のペースで運動やスポーツを行うことができたから
- 授業でていねいに教えてもらえたから
- 一人でもできるものがあったら
- 友達といっしょにできたら
- 家族といっしょにできたら
- いつでも自由に使えて遊びたりする場所があったら
- 学校の中で自由な時間があったら
- 自分の体力、運動能力や体のことで不安なことがあつたら
- 友達にさそわれたら
- 先生や家族からすすめられたら
- 運動やスポーツで活やくしている選手、有名人に教えてもらえたから
- 体型の変化に効果があると分かったら

中学校女子 基本的生活習慣・運動のきっかけ

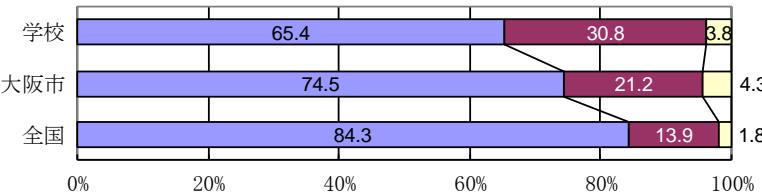
結果の概要

- 運動部に所属している割合が全国に比べて低くなっている。そのため、土曜日や日曜日の運動の実施率も低くなっている。昼休みの運動の実施率もかなり低くなっている。
- 基本的生活習慣には課題がある。朝食の喫食率や1日の睡眠時間、TVの視聴時間にも課題が見られる。
- 運動のきっかけについては、「好きな種目があれば」「自分のペースで運動ができたら」「友達と一緒にできたら」という回答の割合が高くなっている。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

9

朝食は食べますか



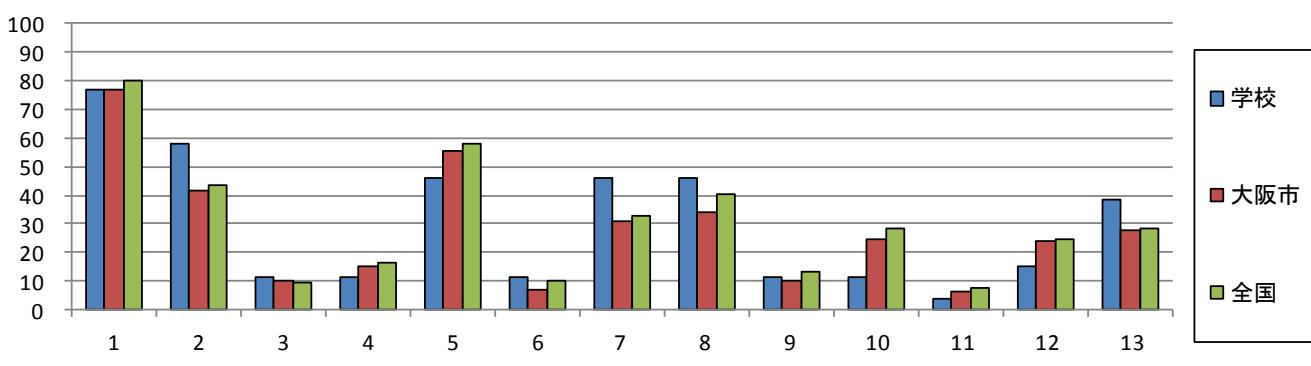
10

1日の睡眠時間



12

今後どのようなことがあれば、今よりもっと運動やスポーツをしてみようと思いますか。



成果と課題・今後の取組【男子・女子】

- 男子と女子で、運動部に所属している割合の違いから、運動の実施率に違いが出ているが、本校は小規模校であるため、部活動を活性化(生徒の好きな種目を増やす)することは難しい。そのため、学校教育の場だけでなく様々な機会を捉えて運動する機会を増やすような取組が必要であると思われる。学校においても、体育の授業を中心にして運動する機会を増やすことが必要である。
- 基本的生活習慣については、「早寝、早起き、朝ごはん」の啓発活動を、家庭や地域と連携して、今後も取組んでいく。

中学校男子 運動・スポーツに対する意識

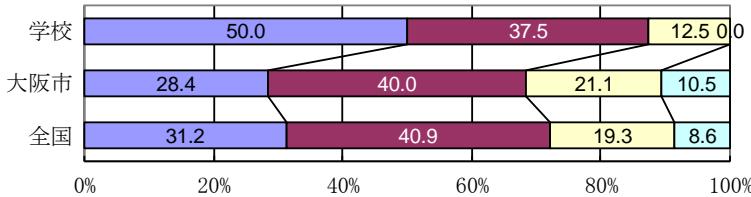
結果の概要

- ・「運動することが得意だ」、「運動することが好きだ」との回答の割合が高くなっている。また、最も否定的な回答が0%となっている。
- ・体育の授業で運動する楽しさを体感させることを意識しており、また、目標を持って協同的に取組ませていることから、教え合ったり助け合ったりして学習を進めていると回答している割合が高くなっている。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

13

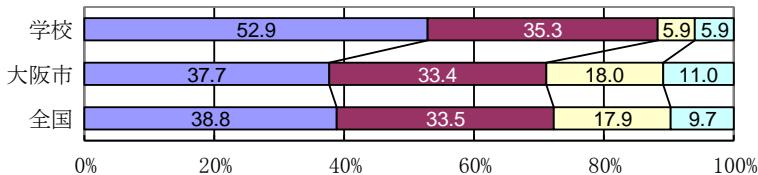
運動やスポーツをすることは得意ですか



■得意
■やや得意
□やや苦手
□苦手

26

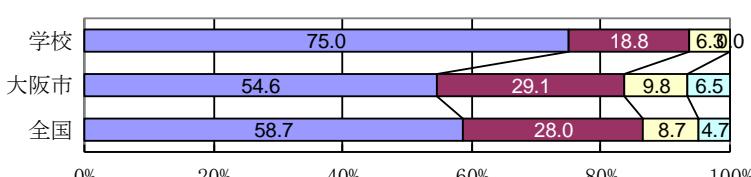
小学校5、6年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが得意でしたか



■得意だった
■やや得意だった
□やや苦手だった
□苦手だった

14

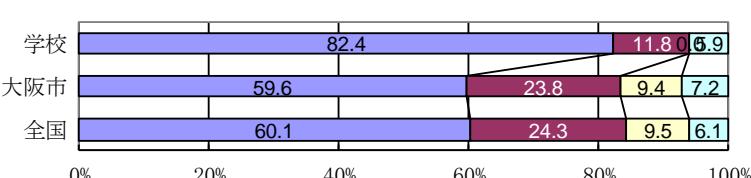
運動やスポーツをすることは好きですか



■好き
■やや好き
□やや苦手
□苦手

27

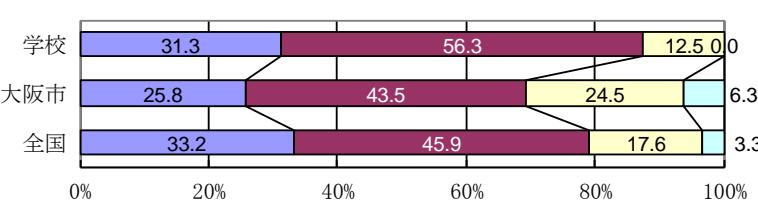
小学校5、6年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが好きでしたか



■好きだった
■やや好きだった
□やや苦手だった
□苦手だった

18

保健体育の授業で、教え合ったり、助け合ったりして学習を進めている



■そう思う
■ややそう思う
□あまりそう思わない
□全くそう思わない

成果と課題、今後の取組

- ・男子は生徒数が少なく、個人の結果が全体に与える影響が大きい。そのため今回の結果に満足せず、引き続き体力向上に取組んでいく。
- ・運動に対する意識が高くなっていることから、今後も体力づくりの目標を持たせ、生徒が意欲を持って取組めるよう授業内容の工夫改善に努めていく。

中学校女子 運動・スポーツに対する意識

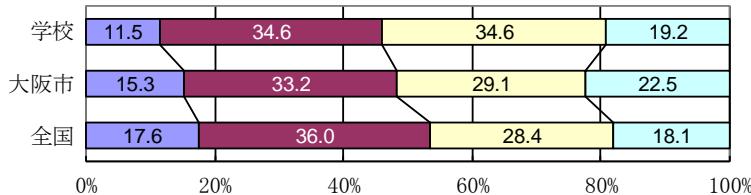
結果の概要

- 「運動をすることが得意だ」「運動をすることが好きだ」と回答している割合が、全国よりも低くなっている。小学校の頃と比べるとその傾向が変わってきている。
- 体育の授業で運動する楽しさを体感させることを意識して取組んでいることが、体育の授業に対する意識を高めることにつながっている。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

13

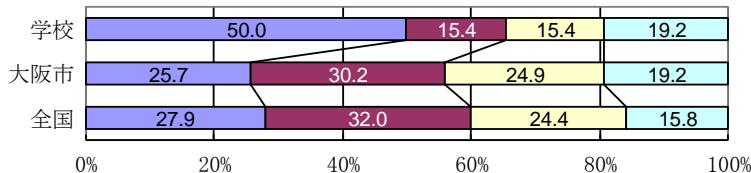
運動やスポーツをすることは得意ですか



■得意
■やや得意
■やや苦手
■苦手

26

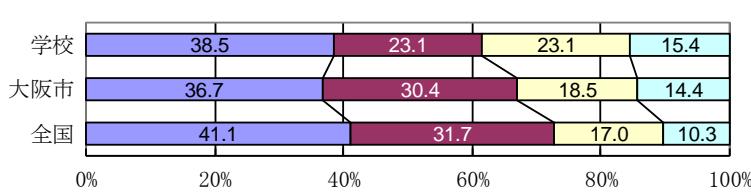
小学校5、6年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが得意でしたか



■得意だった
■やや得意だった
■やや苦手だった
■苦手だった

14

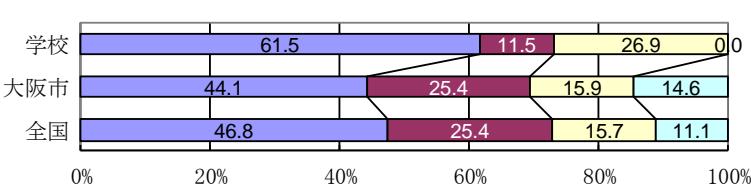
運動やスポーツをすることは好きですか



■好き
■やや好き
■やや苦手
■苦手

27

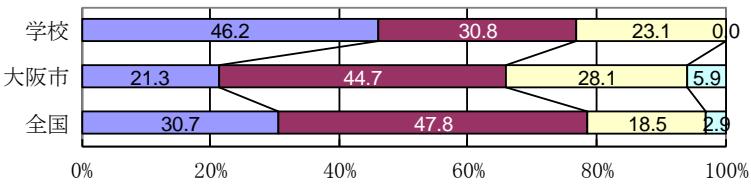
小学校5、6年生のころは運動やスポーツ、運動遊びなどをすることが好きでしたか



■好きだった
■やや好きだった
■やや苦手だった
■苦手だった

18

保健体育の授業で、教え合ったり、助け合ったりして学習を進めている



■そう思う
■ややそう思う
■あまりそう思わない
■全くそう思わない

成果と課題、今後の取組

- 運動する人が得意だという割合は全国や大阪市より低くなっているが、好きだと答えてる生徒は大阪市より高く全国とも大きな差は無い。運動部への所属が低いことからも、体育の授業を中心とした取組の成果であると考える。今後も運動する楽しさを体感できるような取組みを継続させていく。
- 今後も体力づくりの目標を持たせ、生徒が意欲を持って取組めるよう授業内容の工夫改善に努めていく。